

第30回世界LPFGフォーラムに参加して

日本のエネルギー自由化後の

経営戦略を検証する

コアガス日本 代表取締役 最高経営責任者 上園真歩氏 特別寄稿



上園真歩CEO

私は、モロッコのマラケシュで3日から5日までの3日間、モハメッド国王六世の後援の下で開催された第30回世界LPFGフォーラムに参加しました。

本フォーラムは、パリに本部を置く世界LPガス協会(WLPGA)が主催し、世界の主要都市で毎年一回開催される世界最大規模のものです。

現在、加盟国と加盟社数はそれぞれ125と250を超えています。WLPGAの設立趣旨「他に類を見ない優れたLPガスを世界的に広く普及し、人々の生活を豊かにする」に賛同する世界のLPガス関係者が一堂に会しての意見交換です。また、LPガス関連の最先端技術に触れることができる極めて有意義な国際会議です。

毎年、日本から多くのLPガス関係者が参加していますが、近隣諸国の政治不安を危惧してか、

今回は、日本からの参加者は多くはなかったとはいえず、例年に劣らないほどの盛会でした。

3日の初日、モロッコエネルギー連盟のイドリッシ会長など主催者の歓迎の挨拶で幕が開き、モロッコエネルギー鉱山省のレバン大臣のエネルギー産業を強化するための政策を骨子とする基調講演で実際の討議が始まりました。全3日間には、さまざまなテーマについての発表や活発な意見交換などが行われ、

初日に開かれた総会では、2年間の任期を全うされたユーボケル理事長の後継者として、ブラジル最大のLPガス販売会社ワルトラスガスのCEOで、WLPGAの筆頭副理事長を務められているフィルホ氏が、満場一致で新任理事長に選出されました。

この選出は、私にとって喜びました。なぜなら、当社は、2008年にワルトラスガス社と業務提携契約を交わして以来、主として技術面で交流を展開し特別な友好関係に

係にあります。そのきっかけは、2007年、南アフリカ共和国のケープタウンで開催された第20回世界LPFGフォーラムでの同氏との懇談でした。同氏は、温厚な人柄で、LPガス業界の持続可能な成長を人一倍願っており、他の主な経営者同様、今回も愛妻を伴って出席され、私共夫婦と旧交を温めました。

今回、フォーラムに参加した人の最大の関心事は「現在、さまざまな難題に直面しているLPガス業界が、如何にして持続可能な成長を達成することができるか」にあることは、各セッションでこのとおりであると確信しています。フロアでは、当社が国内外の特許を有し、ライセンスしてきたプロパンエアーについて、天然ガスインフラのない地域での有用性についても話題が出ました。WLPGAは、多くのLPガス販売業者から

の要望を受けて、本年6月に「LPガス憲章」を作成し、ホームページで公表していますが、総会でその全テキストが配布されました。

「LPガス憲章」は、権威ある情報源をベースに作成され、保健、気候変動、経済成長と進歩、資源の有効活用、有用性、エネルギーとしての将来性の観点から、LPガスが類まれなるエネルギーであることの宣誓書ともいえるものです。

私は、本年7月、WLPGAよりLPガス憲章(英文)の邦訳と日本国内での広報の依頼を受けました。

当社とWLPGAとの深い関わりは、主に2003年、チリのサンティアゴで開催された第16回世界LPFGフォーラムで、前述プロパンエアーの技術講演を行ったことを契機に、2004年同協会に加盟したことに遡ります。

以来、2013年にWLPGAのシニアスタッフ(フェリー事務理事)を鹿兒島に招聘してのお客様さま、関係団体、当社社員を対象とするミニ国際フォーラムの開催、また、同年10月には、イギリスのロンドンで開催された第26回世界LPFGフォーラムでの自由化後のエネルギーに関する私の経営講演など、当社のグローバル化のための特別支援などを通しての関心の深さが、今回の依頼の背景にあるでしょう。

私は、長年の経営戦略の大きな柱を、地元密着化とグローバル化の融合と位置付けて、WLPGAや米国のLPガス協会(NPGA)に加盟しながら、交流を図ってきたり、だが、とくに東日本大震災後は、LPガスの優位性に関する国内への共同提言などを行い、当社CIの向上にも努めてきました。

その結果、例えば、当社の新電力件数は、600件を超えて、ガスの需要家に対してほぼ100%達しましたが、逆に、都市ガスの自由化については、審議会が述べたように、いまださまざまな法的課題が残っており、予断を許さない状況であり、国際化時代においては、海外の事情なども睨みながら、今後の経営戦略を進めていかなければなりません。

また、WLPGAは、NHKが全国放送しただけに、海外にも報道し、大きな反響があった。当社の電力進出や当社独自の見守りサービスにも大きな関心を示し、戦略を共有しながら、今後の課題にどう取り組むか、今回もモロッコで確認しましたので、こういった海外組織の活用については、ますます重要になっていくでしょう。

(なお、同憲章の邦訳は、来年1月の「プロパン産業新聞」新春特大号に掲載予定)

来年の第31回世界LPFGフォーラムは、米国のヒューストンで開催されることになっています。

私は、1991年にブラジルのリオ・デジャネイロで開催された第3回世界LPFGフォーラムから参加しています。

世界LPFGフォーラムは、2016年度WLPGA年次報告書でも申し述べたように、世界のLPGに関する貴重な情報源であるだけに、企業を国際化するための生産性の高い手段やCI戦略の対外的なモニタートレーニングであり、さらに、世界各国のガス事業者と利害関係者とのビジネスにおける関係構築に役立つ場でもあるため、是非、参加をお勧めします。

されていないと思ってしまう。業界は、一般大衆にLPガスを使用することによるメリットと新たな可能性を理解するための努力をせねばならない」と発言されました。この発言は、LPガスの啓蒙活動を業界が真剣に取り組み、LPガスの需要を増やす余地が、まだ十分にあることを示唆するコメントと私は理解しました。

私と同様に、ベロート社長の発言に賛同したパネリストの一致した結論は「LPガスの将来性は開かれている」ということでした。私もまさにそのとおりであると確信しています。フロアでは、当社が国内外の特許を有し、ライセンスしてきたプロパンエアーについて、天然ガスインフラのない地域での有用性についても話題が出ました。WLPGAは、多くのLPガス販売業者から

の要望を受けて、本年6月に「LPガス憲章」を作成し、ホームページで公表していますが、総会でその全テキストが配布されました。

「LPガス憲章」は、権威ある情報源をベースに作成され、保健、気候変動、経済成長と進歩、資源の有効活用、有用性、エネルギーとしての将来性の観点から、LPガスが類まれなるエネルギーであることの宣誓書ともいえるものです。

私は、本年7月、WLPGAよりLPガス憲章(英文)の邦訳と日本国内での広報の依頼を受けました。

当社とWLPGAとの深い関わりは、主に2003年、チリのサンティアゴで開催された第16回世界LPFGフォーラムで、前述プロパンエアーの技術講演を行ったことを契機に、2004年同協会に加盟したことに遡ります。

以来、2013年にWLPGAのシニアスタッフ(フェリー事務理事)を鹿兒島に招聘してのお客様さま、関係団体、当社社員を対象とするミニ国際フォーラムの開催、また、同年10月には、イギリスのロンドンで開催された第26回世界LPFGフォーラムでの自由化後のエネルギーに関する私の経営講演など、当社のグローバル化のための特別支援などを通しての関心の深さが、今回の依頼の背景にあるでしょう。

私は、長年の経営戦略の大きな柱を、地元密着化とグローバル化の融合と位置付けて、WLPGAや米国のLPガス協会(NPGA)に加盟しながら、交流を図ってきたり、だが、とくに東日本大震災後は、LPガスの優位性に関する国内への共同提言などを行い、当社CIの向上にも努めてきました。

その結果、例えば、当社の新電力件数は、600件を超えて、ガスの需要家に対してほぼ100%達しましたが、逆に、都市ガスの自由化については、審議会が述べたように、いまださまざまな法的課題が残っており、予断を許さない状況であり、国際化時代においては、海外の事情なども睨みながら、今後の経営戦略を進めていかなければなりません。

また、WLPGAは、NHKが全国放送しただけに、海外にも報道し、大きな反響があった。当社の電力進出や当社独自の見守りサービスにも大きな関心を示し、戦略を共有しながら、今後の課題にどう取り組むか、今回もモロッコで確認しましたので、こういった海外組織の活用については、ますます重要になっていくでしょう。

その結果、例えば、当社の新電力件数は、600件を超えて、ガスの需要家に対してほぼ100%達しましたが、逆に、都市ガスの自由化については、審議会が述べたように、いまださまざまな法的課題が残っており、予断を許さない状況であり、国際化時代においては、海外の事情なども睨みながら、今後の経営戦略を進めていかなければなりません。

また、WLPGAは、NHKが全国放送しただけに、海外にも報道し、大きな反響があった。当社の電力進出や当社独自の見守りサービスにも大きな関心を示し、戦略を共有しながら、今後の課題にどう取り組むか、今回もモロッコで確認しましたので、こういった海外組織の活用については、ますます重要になっていくでしょう。

(なお、同憲章の邦訳は、来年1月の「プロパン産業新聞」新春特大号に掲載予定)

来年の第31回世界LPFGフォーラムは、米国のヒューストンで開催されることになっています。

私は、1991年にブラジルのリオ・デジャネイロで開催された第3回世界LPFGフォーラムから参加しています。

世界LPFGフォーラムは、2016年度WLPGA年次報告書でも申し述べたように、世界のLPGに関する貴重な情報源であるだけに、企業を国際化するための生産性の高い手段やCI戦略の対外的なモニタートレーニングであり、さらに、世界各国のガス事業者と利害関係者とのビジネスにおける関係構築に役立つ場でもあるため、是非、参加をお勧めします。